

図書館&がん相談支援センター連携ワークショップ<北日本地区>  
『いつでも、どこでも、だれでもが、がんの情報を得られる地域づくりの第一歩』  
平成29年1月23日 いわて県民情報交流センター（アイーナ）

## 『連携が安らぎある「場」を提供する』 ～和歌山県立図書館「がん」関係図書コーナーの開設から～

和歌山県立図書館  
松田 公利



和歌山県立図書館「がん」関係図書コーナー  
平成24年11月9日開設



和歌山県立図書館「がん」関係図書コーナー



和歌山県立図書館「がん」関係図書コーナー



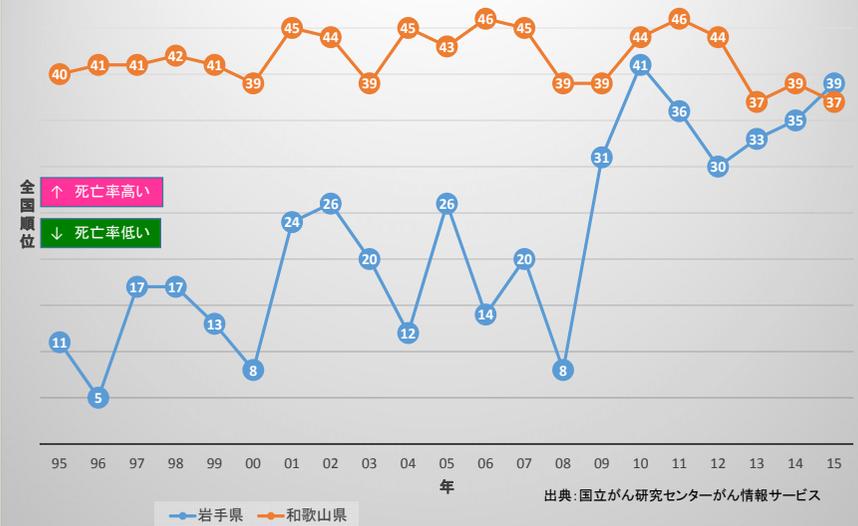
# 『肺がん死亡率 全国ワースト返上へ』

「わかやま新報」（平成24年5月29日付）

- ➡ まさか、和歌山が！（根拠の無い過信）
- ➡ 司書としては、ダメ！（アンテナの低さ）
- ➡ 図書館として、何かできないか！（がん情報の提供）

和歌山県の「がん」死亡率の状況はどうなっているのか？

75歳未満年齢調整死亡率 全国順位(全部位男女)



県民は、  
「がん」死亡率の状況を知っているか？

県民の「がん」情報取得の環境？

「がん」関係図書コーナー設置

## 1. 「がん」コーナーの設置根拠

(1) 和歌山県の「がん」死亡率の現況 = **重点課題**

(2) 和歌山県の「がん」対策計画

- ① 『**和歌山県がん対策推進計画**』（平成20年3月）  
「10年以内に年齢調整死亡率(75歳未満)の25%減少」
- ② 『**和歌山県長期総合計画**』（平成20年4月）  
「将来像に向けた取組」→「がん」死亡率の削減を明示

# 1. 「がん」コーナーの設置根拠

## (3) 図書館における医療情報提供の指針

- ①『公立図書館の任務と目標』第31項  
(日本図書館協会図書館政策特別委員会・1989年1月)
- ②『地域の情報ハブとしての図書館—課題解決型の図書館を目指して—』  
第3章の5「取組課題候補Ⅲ：医療関連情報提供」  
(文部科学省・図書館をハブとしたネットワークの在り方に関する研究会・平成17年1月)
- ③『これからの図書館像～地域を支える情報拠点をめざして～(報告)』  
第2章の2「これからの図書館サービスに求められる新たな視点」  
第2章の3「これからの図書館経営に必要な視点」  
(文部科学省・これからの図書館の在り方検討協力者会議・平成18年3月)
- ④『新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について～知の循環型社会の構築を目指して～(答申)』  
第2部の2の(2)「社会教育を推進する地域の拠点の在り方」  
(文部科学省・中央教育審議会・平成20年2月)
- ⑤『図書館の設置及び運営上望ましい基準』  
第二の一の3の(三)→「地域課題に対応したサービス」  
(文部科学省・平成24年12月19日文部科学省告示第172号)

# 2. 「がん」コーナー設置の目的

【対象は、県民】

- (1) 「がん」コーナーの認知度
- (2) 「がん」情報を気軽に得られる場の提供
- (3) 和歌山県の「がん」死亡率の課題を認知
- (4) 「がん」知識を深める
- (5) 「がん」について考える機会提供
- (6) 命の尊さ・家族の大切さを再認識
- (7) 「がん」の検診・予防の必要性を認識



がん患者さん・ご家族への  
コーナーづくりが課題



## 3. コーナーづくり

### 3-1(1). コーナーづくりの認識

図書館が何をするのか提示する<見える化>

図書館の姿勢と意思表示



連携には不可欠

### 3-(2). コーナー内容の検討



### 3-(3). コーナー資料について

#### 基軸資料

※医療情報:科学的根拠を基にしたガイドライン

(例)『インフォームド・コンセントのための図説シリーズ』

(医薬ジャーナル社)

・『診療・治療ガイドライン』(各学会編集)

・国立がん研究センター発行の資料

情報提供の入り口(基本資料)



※公立図書館の役割に基づいた幅広い資料提供

【根拠】

「図書館の自由に関する宣言」(日本図書館協会)

→ 憲法「知る自由の保障」・図書館法

### 3-(4). 和歌山県立図書館 「がん」関係図書コーナー資料分類(構成)

- 「がん1」: 呼吸器(肺がん)
- 「がん2」: 消化器(胃・食道・大腸・肝・胆・膵がん)
- 「がん3」: 泌尿器(腎がん・前立腺がん等)
- 「がん4」: 婦人科系(子宮がん・乳がん・卵巣がん等)
- 「がん5」: 血液・リンパ(リンパ腫・白血病等)
- 「がん6」: 他種(甲状腺がん・咽頭がん・小児がん等)
- 「がん7」: がん全般(治療・検査・予防・緩和ケア等)
- 「がん8」: 闘病記等(がん闘病記・患者支援・家族支援等)

約 700冊

## 4. 広報

## 4. 広報（内容）

- 県庁担当部局「健康推進課」への事前説明
- 「がん」関係機関へのサイトリンク依頼
- 報道機関への資料提供（取材依頼）
- 県職員用システム掲示板に掲示
- 「がん」関係講演会でのコーナー案内書を配付

外部広報

効果

内部広報

## 4. 広報（効果）

- ◎ 報道機関の取材（新聞・ラジオ・テレビ）
- ◎ 関係部局（県議会事務局・福祉保健部健康局・教育委員会）からの問い合わせ → 「和歌山県がん対策推進条例」制定前
- ◎ 県内「がん」関係機関からの問い合わせ
- ◎ 県民からの問い合わせ、評価

「がん」コーナー  
認知

補助資料の充実

連携と  
「場」の提供へ

## 5. 連携



和歌山県 福祉保健部 健康局 健康推進課の担当者

担当部局との連携

## 5. 連携(担当部局)

県民の後押し=知事への御意見①(平成26年3月)

ご家族が「がん」患者である県民から

- 「がん」関係図書コーナーでの取組全般を評価
- 関係機関との連携を評価(NPO法人・医療機関)  
「(前略)図書館の創意工夫で、各事業者と連携するなど、県民へのがんに対する啓蒙活動であると賞賛します。……」

知事公室長から全県職員にメールで紹介

図書館の機能(可能性)を認識

## 5. 連携(担当部局)

担当部局の図書館への認識と理解

- ◎多くの県民が利用する場
- ◎県民による直接評価の可能性

行政広報としての有効性

## 5. 連携(担当部局)

### 連携の進展

- ◎福祉保健部健康局局長の来館
- ◎『がん対策施策報告書』(がん条例31条)に  
県立図書館の取組報告
- ◎担当部局ホームページ「わかやまがんネット」  
(平成26年3月開設)に当館案内
- ◎「がん」関係啓発活動の報告及びポスター等の掲示依頼
- ◎「がん」関係冊子、パンフレットの入荷連絡

図書館の取り組み=県「がん」施策の一部



NPO法人との連携

## 5.連携（NPO法人）

NPO法人「いきいき和歌山がんサポート」(H22設立)

### 【会 員】

患者さん・ご家族・医師・看護師・  
放射線技師・社会保険労務士・  
がん患者ピアサポーター ……

## 5.連携（NPO法人）

「がん」コーナー開設当初から、  
何か有効な図書館の場所提供  
できないか模索……？

他県の図書館にも  
問い合わせ

## 5.連携（NPO法人）

「いきいき和歌山がんサポート」理事長(医師)の  
講演会開催(H25. 3)

がん患者さん・ご家族の「居場所づくり」に言及

図書館での「場」の提供を決意

講演会終了後に、NPO会員の方々から要望

## 5.連携（NPO法人）

『県立図書館に「がん患者サロン」がほしい！』

- 患者さんの中には、  
病院に行きたくない方がいる。
- 県立図書館には、いろいろな本がある。
- 県立図書館には、  
「がん」コーナーがある。
- 県立図書館は、  
落ち着ける環境である。

# 5.連携（NPO法人）



平成二十五年七月七日  
「図書館いきいきサロン」開設

# 5.連携（NPO法人）

県民の後押し=知事への御意見②(平成26年5月)

御自身が「がん」患者でサロンに参加した県民から

- 県立図書館に「がん患者サロン」があると知って嬉しい。
- 県立図書館で開催された「がん講演会」で知った。
- 「慰められ、励まされ、精神的に本当に助けられた。」
- 県立図書館で「いろんな情報」が得られる。
- 県立図書館に「がんに関するコーナー」があることを知った。
- がん患者の気持ちが「癒やされる場」として「サロンの役目は大きい。」
- 「県立図書館に」、「そういう場」を作っていただいて本当にありがとう。

NPO会員の方々の理由と合致

図書館の「場」提供の重要性を認識

# 5.連携（NPO法人）



勉強会



談笑



相談対応



手づくり作業



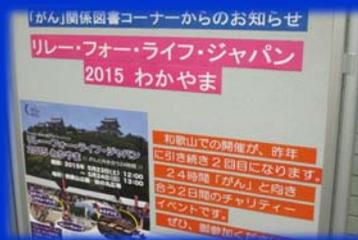
講演会  
(県立図書館共催)

などなど...

図書館いきいきサロン  
活動内容

# 5.連携（NPO法人）

- リレー・フォー・ライフ・ジャパン わかやま 《広報の相互協力》
- 相互の情報提供・資料相談
- コーナー資料の点検 《理事長：医師の立場から》
- NPO発行資料のコーナー設置
- 各種機会における相互広報
- NPO役員との意見交換 《がん患者さんを身近に感じて》



昨年11月に、「いきいき和歌山がんサポート」の会員で社会保険労務士の 富永 博氏から 出版書の御寄贈がありました。  
※富永氏は、進行性直腸がんで治療中です。



和歌山県立医科大学附属病院

## 医療機関との連携

## 5.連携（医療機関）

和歌山県立医科大学附属病院  
「患者支援センター がん相談支援センター」

【主なスタッフ】  
看護師・社会福祉士

がん体験者の講演会  
「がん患者・ご家族・県民のための公開講座」

## 5.連携（医療機関）

「がん」講演会の継続開催

予算！

和医大病院へ共催提案（H25.9）  
《会場は県立図書館で》

## 5.連携（医療機関）

「公開講座」の役割分担

県立図書館

県立医科大学附属病院

- 講師提案
- 会場の提供、設営
- 広報（図書館・教育関係等）
- 広報（HP・館内・外部機関）
- 講師対応
- 講師著書の資料紹介
- NPO登壇者対応

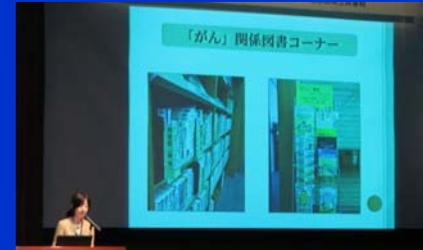
- 予算！
- 受付・司会進行
  - 広報チラシ作成
  - 広報（県広報誌・HP・医療機関）
  - 参加申込窓口
  - アンケートまとめ

## 5.連携（医療機関）

がん体験者のお話し



## 5.連携（医療機関）



《講演前》  
 <県立図書館司書>  
 “講師著書の紹介”  
 “「がん」コーナー案内”



《講演後》  
 “NPO法人いきいき和歌山がんサポート活動紹介”

## 5.連携（医療機関）



図書館の利点

- ◎情報量
- ◎司書の専門性
- ◎幅広い利用層
- ◎場所提供・開館日
- ◎広報拡充
- ◎公開講座での情報提供の拡充

安心「場」の提供

## 5.連携（医療機関）



和歌山県立医科大学附属病院との連携利点

- ◎予算確保
- ◎医療現場の専門員
- ◎「がん」相談窓口
- ◎医療的相談可能
- ◎独自資料等の入手
- ◎公開講座の協力体制
- ◎市町村対応

貴重な存在

# 5.連携（医療機関）

国立がん研究センター・第一生命セミナー  
「がん」の時代を生きる  
平成28年10月6日 和歌山市

県内がん相談支援  
センター担当者

後日、メールで連携協力の依頼

セミナーでの県立図書館紹介データがほしい！

がんサロンで図書館情報を提供



個人利用者・他機関との連携

# 5.連携（個人利用者）

国立がん研究センター  
「患者・市民パネル」委嘱者

意見交換（面談）希望  
H25.5

- ・必要な情報の提示（課題）
- ・「がん」コーナー（がん取組）の評価、理解
- ・日常会話を通じて ……

「場」の充実

- 「がん」を身近に
- 「がん」と向き合う個人の心情

個人との繋がり必要性

- ◎医療情報の提供力
- ◎図書館環境

# 5.連携（他機関）

NPO法人がんリボンズ

パネル展示  
「がん治療中の生活情報」  
H26.3

がんリボンズ機関誌等を  
「がん」コーナーに配置

公開講座の案内  
がんリボンズホームページ掲載

当館の取り組みが全国レベルで広報



## 5.連携（他機関）

和歌山県立医科大学図書館 三葛館



## 5.連携（他機関）

和歌山県立医科大学図書館 三葛館



## 6. 連携のまとめ

## 6. 連携のまとめ

和歌山県立図書館の「連携」まとめ

連携先

目的(ねらい)

県担当部局(課)

行政施策での「がん」啓発活動

NPO法人

「がん」を身近にする・患者・ご家族

個人

「がん」関係の取組検証

医療機関

「がん」治療の理解

専門(他館種)図書館

高度な「がん」情報の提供

「がん」情報と「場」の提供の拡充

# 6. 連携のまとめ

## 図書館の連携認識

### 1. 「連携」とは何か？

相互に「メリット」がなければダメ！

図書館の都合ばかりでは連携は続かない

# 6. 連携のまとめ

## 図書館の連携認識

### 2. 図書館の利点を生かす

- ① 広報の有効媒体(幅広い利用層)
- ② 場所提供(集客力・休日開館等)
- ③ 学びの環境(安らぎの空間)
- ④ 資料(情報)の存在
- ⑤ 司書の専門性(活用案内・情報提供)

※ 「これからの図書館像～地域を支える情報拠点をめざして～(報告)」  
においても、図書館の有効資産を明示

# 6. 連携のまとめ

## 図書館の連携認識

### 3. 図書館は「連携」の中核ではない



# 6. 連携のまとめ



## 7. 今後に向けて

「がん」(医療)情報窓口の増加

図書館設置率の課題

連携先スタッフとの協力体制

窓口増加の可能性

医療情報提供の機運向上

がん教育・がんと就労

## 8. おわりに

「ナウイストになろう！」

「完璧でなくて良いから行こう！」

「とにかくやってみよう！」

「考えるより行動せよ！」

「やって失敗するリスクよりも、やらないことのリスクの方が大きい」

京都大学IPS細胞研究所所長 山中伸弥氏 & MITメディアラボ所長 伊藤穰一氏  
(2015年1月1日 Eテレ スーパープレゼンテーション新春SP)